

寛永諸家系圖傳序

本朝諸家の系圖世に傳はる事久し鹿苑ろくをん院殿の時に大納言藤原公定きんさだうけたまはりて分脉ぶんみやく圖をえらひ嫡子ちやくし庶子の本末をわけて世におこなふといへどもなをいまたつまびらかならず寛永十八年二月七日

將軍家あらたに

台命をくたしたまひて諸家の系圖をあつめあましむ資宗これを奉行す民部卿法印道春これにそふてそのあむへきおもむきをしめすここにをひて諸大小名御譜代御近習御番衆等およそ恩祿おんろくをかうふるもの大小となくみな其家譜をささぐるもの数千人なり道春をよひ子

正意は諸氏の部をえらひ水戸の書生は平氏の部をあむ重俊これに属す其外草案をつ

くり浄書じやうしょにあつかるもの数十人におよべり歳を経て全編ぜんぺんをなす其系譜にくはしき

ありあらあらしきある事はおのおの獻けんする所の

家本長短ちやうたんあるによりてなり漢字倭字都合

三百七十二卷其名を題だいして寛永諸家系圖傳といふかくのこときの大部なる事

本朝のむかしよりいまたきかさるところなり

誠に太平御一統とうの御時にあらずはいかてかここにいたらんや諸家其官祿くわんろくをする時は御恩のあつき事をわすれず其勲功くんこうをのする時は

先祖のつとめをおもふへししかれば忠孝ちゅうかうの道

春齋件の家譜をみて其真偽しんぎをわきまへ其新舊しんくをただす且かつ又また

仰によりて漢字倭字かんじわじ兩通をつくらしむ其事繁多はんたなるゆへに十九年三月十日かさねて

台命くたりて僧録そうろく金地院元良長老尾州の法眼正意水戸の書生しよせい卜幽了的小おなしく其事にあつかる高野山見樹院立詮をよひ御右筆

大橋重政小嶋重俊倭字の事にあつかる且又京都五岳がくの僧侶そうりよ十七人をめして

江戸にきたらしむここにをひて諸家の系譜をわかちくはる道春春齋は清和源氏の部ぶをつかさとる立詮これに属ぞくす元良および五岳衆は藤原氏の部をつかさとる重政これに属す

無窮ぶきゆうの徳とともに千萬世の後またたれかあふきたてまつらざらんや

寛永二十年癸未九月吉日

從五位下太田備中守源資宗